

平成 30 年度
特定非営利活動法人
大淀川流域ネットワーク 総会

日 時 : 平成 30 年 5 月 12 日 (土) 16 時 00 分～
場 所 : みやざき NP0・協働支援センター 活動支援スペース

総会次第

1. 開会のことば
2. 代表理事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 議事録作成者及び署名人の氏名
6. 議事
 - 第 1 号議案 平成 29 年度活動報告
 - 第 2 号議案 平成 29 年度収支報告・会計監査報告
 - 第 3 号議案 平成 30 年度事業計画 (案)
 - 第 4 号議案 平成 30 年度予算 (案)
 - 第 5 号議案 定款変更について
 - その他
7. 議長の解任
8. 閉会のことば

I. イベント部会報告書（部会長 池辺 美紀）

1. 次代をになう！水辺とのふれあい教室（県央・県南地区）の開催（宮崎県河川課委託事業）

プログラム①

◆ダム見学と川遊び体験（バス見学）

開催日 平成29年7月28日（金）8時30分～15時30分
場所 広渡ダム（広渡川）、しゃくなげの森（沖水川）
対象 小学3年生以上の親子7組
参加者数 親子7組 計14名

参加者から、行程の途中や見学場所での質問が多く、自然環境や川に関心が高い方が多かった。広渡川の広渡ダムでは、日南土木事務所の工務課河川ダム担当の方から、広渡ダム資料館で分かりやすく説明を受けた後、普段は入ることが出来ない広渡ダムの内部（監査路や制御室）を見学。また、ダムカードを配布していただき参加者が喜んでいました。洪水時の水量を調整するために建設されたとの説明を受け、増水した時の怖さやダムの役割の重要性を学んでもらうことができた。

ダム見学の後、沖水川のしゃくなげの森へ移動して、水辺で安全に活動する方法についての講義後、川遊び体験を実施。水温が低く少し冷たかったが、参加者は、大淀川に繋がっていることへの驚きと、上流部の清流の美しさの気づきがあり、清流を守っていかねばいけないとの意欲を示す子どもがいた。施設でのヤマメつかみ取りも行い、溪流で泳ぐという貴重な体験も加え、参加者の思い出作りと同時に、川を愛する心の醸成につながっていくと感じた。

以上のことから、次代を担う子どもやその保護者に、楽しく川に触れ合う機会を提供することができた。

プログラム②

◆川流れと川遊び体験

開催日 平成29年8月22日（火）9時00分～12時00分
場所 綾町松原自然公園（綾南川）
参加者数 子ども49名と保護者50名 計99名
（申込数 子ども54名・保護者54名 計108名）

実施前の事前準備として周辺の草を刈って通路を確保した。当日は、川の水量が豊かで安心して川流れを実施することができた。ボードで川流れは、宮崎大学の大学生と宮崎河川国道事務所の方に安全管理を担当してもらった。また、のぞきメガネで自然観察と水生生物探しには、五感を使った水辺環境調査の下敷きを使用して水生生物調査を実施。最下流部には、県の担当者の方にストッパーを担当いただいた。

平日を開催日としたが、定員をこえる申し込みがあり参加者を抽選で選定した。数人のキャンセルが発生したのでキャンセル待ちの方へ連絡したところ、参加を喜ばれ、事業を楽しみにしていただいていることが分かった。



昨年度、川流れをもっと楽しみたいとの声があったため、今年度は、川流れを「ボードで川流れ」と「PFDで川流れ」の2種類にして、体験の時間を多く設定。各所で子どもたちの歓声と笑顔に溢れ、川を流れて面白かったことや、魚を上手く捕まえたことや、水生生物や不思議な生き物を見つけたことの感動等を、親子で対話している光景が見られ、綾南川の自然を満喫してもらうことができた。ヤマメつかみどりをして、炭火で焼いて食べるという経験も好評で、参加者の保護者から、体験メニューが充実していて、進行もスムーズと好評価をいただいた。子どもからは来年もまた来たいとの感想があった。

以上のことから、次世代を担う子どもたちに、川について関心を持ってもらい、川と人との関わり、川の大切さ・素晴らしさ・ありがたさを学んでもらうための学習・体験の場を提供するという目的を達成することができた。



たくさんの笑顔が集まりました。

右、当日のスタッフ（宮崎大学の学生さん国土交通省宮崎河川行動事務所の方々が協力していただきました。）

2. 子どもの水辺・海辺安全教室の開催（宮崎県河川課委託事業）

実施日：◆平成29年7月26日（安久子どもクラブ）、◆27日（太陽スポーツクラブ）、◆29日（本郷キッズ）、◆31日（宮崎第一中学校）、◆8月11日（川東小サッカークラブ）、◆26日（志和地子どもクラブ）

場 所：沖水川上流（しゃくなげの森）

参加者数：合計子ども357名

ライフジャケットの正しい装着と川で気をつけなければならない事を指導。川は楽しいところであるが間違えば命を落とすこともある事を伝え大変真剣に聞いてくれました。川で泳いだことのない保護者も多いため、流れのある川での水辺講習は子どもだけでなく保護者にも有意義であった。



川の安全教室指導の様子

3. AQUA SOCIAL FES!! 2017 in宮崎

◆～大淀川にイイコトして水辺を市街地有数の憩いの場に！～第1回：

稚魚も希少植物も喜ぶ水辺をつくろう小川再生プロジェクト

実施日 平成29年5月28日（日） 9時～12時

場 所 天満橋下 大淀川

参加者数 190名

内 容 せせらぎ水路清掃、タコノアシ保護活動、アユの稚魚放流



◆～大淀川にイイコトして水辺を市街地有数の憩いの場に！～第2回：

稚魚も希少植物も喜ぶ水辺をつくろう小川再生プロジェクト

実施日 平成29年7月23日（日） 9時～12時

場 所 天満橋下 大淀川

参加者数 130名

内 容 外来植生の除去、小川再生の技術指導。稀少植物タコノアシの保護活動



せせらぎ水路清掃と、タコノアシ保全活動の様子

4. 修学旅行カヌー体験（宮崎市観光協会、みやざき元気体験プログラム）

◆実施日 平成29年11月1日（水）

場 所 宮崎市役所下 大淀川

学 校 大阪市立汎愛高等学校

午前中・午後の2回 総数25名

◆実施日 平成29年11月21日（火）

場 所 宮崎市役所下 大淀川

学 校 福岡県春日南中学校

参加総数30名



◆実施日 平成 29 年 11 月 30 日 (木)
場 所 宮崎市役所下 大淀川
学 校 大阪市立都島工業高等学校
参加総数 34 名

修学旅行の受け入れでカヌーを実施。宮崎の自然の豊かさ大淀川の素晴らしさをカヌー体験を通して感じていただきました。一生思い出に残る体験になったことと思います。



5. Green Gift 地球元気プログラム in 宮崎

主 催 : NPO 法人大淀川流域ネットワーク
共 催 : 認定 NPO 法人日本 NPO センター
協 力 : EPO 九州、宮崎県、宮崎内水面漁業協働組合、国土交通省宮崎河川国道事務所
協 賛 : 東京海上日動火災保険株式会社
後 援 : 環境省

◆ I 「北川に学ぶ洪水対策とホテル観賞」

実 施 日 : 平成 29 年 6 月 3 日土曜日 13:00~21:40
開催場所 : 家田霞提・家田湿原・ホテルの館
参加者数 : 宮崎の参加者 親子 23 名 延岡の参加者 親子 25 名

【内容】

霞提では県の担当者から霞提の役割と宅地かさ上げについての説明をいただき、洪水対策を学習。家田湿原では、北側町の担当の方に自然再生や生息する希少生物について説明を受け、自然保護活動の重要性を学んだ。また、ホテル館では宮崎延岡混合でのグループワークを行い本日の学びについて「意見交換を行った。最後にホテル観賞を行い自然の織り成す神秘をそれぞれが感じていた。



◆ II 「大淀川の魚・水辺安全学習と、うなぎ放流・つかみ体験」

実 施 日 : 平成 29 年 7 月 22 日 (土)
場 所 : 天満橋下大淀川
参加者数 : 40 名 (申し込み 83 名)

【内容】

大淀川の魚たちの学習、水辺の安全の学習と交流会、ウナギ放流・つかみ体験を行いました。大淀川の魚たちの学習では、大淀川は魚たちの大切な棲みか、たくさんの種類がすんでいて、上流部にはオオヨドシマドジョウ、中流部にアユカケ、下流部にアカメなどの絶滅が心配されている魚もいることを、宮崎内水面漁業協同組合に説明してもらいました。水辺の安全の学習と交流会では、水辺で安全に遊ぶための注意について親子で学び、川の素晴らしさ・大切さ・楽しさなどについてみんなで意見交換を行いました。その後に、天満橋下河川敷に移動してウナギ放流とつかみ体験を実施。ウナギさばき実演も行いました。



◆Ⅲ 「いのちの授業と水質調査」

実施日：平成29年11月25日（日） 9時～17時

場 所：しゃくなげの森リバーパーク 沖水橋河川敷 都城市中央公民館

【内容】

宮崎の参加者（親子19名）と都城の参加者（親子23名）がしゃくなげの森で合流し、ヤマメの養殖場と採卵・人工授精を見学。ヤマメつかみどりを行い、炭火塩焼をたべた。宮崎県独自の環境指標を使って、沖水川上流域の風景や水生昆虫などの生物学的な見地やCODや透明度などの化学的な見地から水のきれいさを調査。次に、沖水川下流域へ移動して同じ方法で水のきれいさを調査。最後に、都城市中央公民館で交流会を開催して、川を通して何を感じたか、川で育まれている生き物のいのちについて何を思ったか、上流下流の水辺環境の違いとその原因などについて意見交換を行った。

ヤマメの採卵・人工授精の見学では、環境カウンセラーから、いのちの繋がりや大切さについて説明をいただいた。



6. 大淀川クリーンアップ2017 下流

実施日 平成29年7月15日（土）

活動範囲 大淀川河口 ～ 平和台大橋 大淀川河川敷両岸

実施団体 大淀川クリーンアップ実行委員会

共催団体 国土交通省宮崎河川国道事務所

参加団体：国土交通省宮崎河川国道事務所、宮崎県県土整備部河川課、高岡土木事務所、宮崎土木事務所、宮崎市環境保全課、宮崎県建設業協会、宮崎県測量設計業協会、宮崎県造園緑地協会宮崎支部、宮崎県浄化槽協会、宮崎県地質調査業協会、宮崎市内ライオンズクラブ、全建緑陽会、大宮地区青少年育成協議会、九州電力（株）宮崎支社、（株）宮崎銀行、（株）宮崎太陽銀行、東京海上日動火災保険（株）、宮崎総合学院、NPO法人大淀川流域ネットワーク 総計 722 名
収集したゴミ： 燃やせるゴミ 57 袋、燃やせないゴミ 15 袋、カン・ビン 10 袋、プラ 3 袋、ペットボトル 7 袋
たくさんの団体やボランティア参加協力のおかげで広範囲にわたり活動ができました。



7. 水辺安全講習会

地域で水害時の救助活動や子ども達の水辺活動に携わる皆さんを対象とした、水中で安全に活動するための水辺安全講習会。活動を行う際の基礎知識やロープレスキューなどの救助技術および、流水中の避難時の歩行などについて、講義と実習を通して水辺の安全を学習。

主催：国土交通省宮崎河川国道事務所

主管：NPO 法人大淀川流域ネットワーク

開催日時：平成 29 年 7 月 19 日（水） 9 時～16 時半

参加者数：11 名（行政職員、大学生）

場所：国富町農村環境改善センター、本庄川





増水した川での本格的なレスキュー訓練

◆まとめ◆

イベント部会では平成 29 年度、計 7 の事業に、のべ 1,700 名以上の方に参加いただいた。各事業の目的を十分達成することができ、参加者それぞれが思い出になるような活動になったと思う。

また、事故もなく事業を遂行できたのは、国土交通省、環境省、宮崎県など行政機関。また、トヨタ自動車㈱、東京海上日動火災保険㈱などの企業の協力、さらには宮崎大学、宮崎総合学院など多数のボランティアの協力のおかげであります。心より感謝申し上げます。

特に、グリーンギフトプロジェクト、アクアソーシャルフェス、大淀川クリーンアップでは企業様から多大なる応援をいただき、子ども達の笑顔をたくさん集めることができました。さらに、川遊び安全教室やカヌー体験などでは川での自然体験を通じて、参加者の弾ける笑顔や、アンケートから川を愛する心の醸成がなされたと確信いたします。

イベント部会では来年度も川の自然体験を続け、ふるさとの自然の素晴らしさを伝えていきたいと思います。

Ⅱ. 調査部会報告(部会長 鈴木 祥広)

1. 第14回身近な水環境全国一斉調査実施

平成16年度から「全国一斉水質調査」に参加して、大淀川流域の水質を調査しています。平成29年度は、5月27日(土)に調査を実施しました。調査地点は、例年通り大淀川本支流の定点29か所です。29年度は28度と異なり、平水時に調査できました。水質項目は、COD、pH、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、リン酸態リンの6項目です。表-1に、COD、硝酸態窒素、およびリン酸態リンの27-29年度の調査結果を示します。有機物汚濁指標のCODの結果をみると、大淀川の要監視流域区間の4地点(岳下橋、志比田橋、乙房橋、王子橋)では、現状維持あるいはいくぶん改善している傾向が認められます。戸崎川はCODが高いまま現状維持です。大の丸橋は28年度の8mg/L以上から2mg/Lに大幅に低下しており、通常のレベルに回復しています。気がかりなのは、これまでCODが低かった大淀川上流の4地点が急に高くなっている点です。今年度も高い数値が検出されるようであれば、公的機関への本格的な調査の依頼も検討する必要があります。硝酸性窒素は、キットの最高値の4.6mg/Lを示した地点はなく、全調査地点で2.3mg/L以下でした。硝酸態窒素の濃度は年度ごとに変動が大きく、調査期間における降雨等の気象条件も影響するのかもしれません。リン酸態リンが大淀川上流地点で高くなっており、CODの上昇と関連している可能性があります。

これまでの調査結果を時系列的に整理しました。図-1に、大淀川の上流(塚元橋)・中流(乙房橋)・下流(相生橋)の3点におけるCODの時系列的变化(H22-29年度)を示します。上流は、H22~25年度に低下し、H28年度までは低く維持されています。しかし、H29年度に急増しています。中流の乙房橋は4mg/L以上で検出され、大淀川の汚濁区間となっています。下流は、おおむね減少傾向にあり、中流域の汚濁も河川の自然浄化によって水質が改善されていることがわかります。調査を継続することによって大淀川の水質汚濁・改善の状況が把握できるので、継続的な水質調査はとても重要です。大淀川の恵みに感謝しつつ、今後も一丸となって水質浄化への取り組みを継続していきましょう。

なお、「第14回身近な水環境の全国一斉調査」がアップされています。<http://www.japan-mizumap.org>

※ 平成30年度第15回全国一斉水質調査は、平成30年5月26日(土)に実施の予定です。

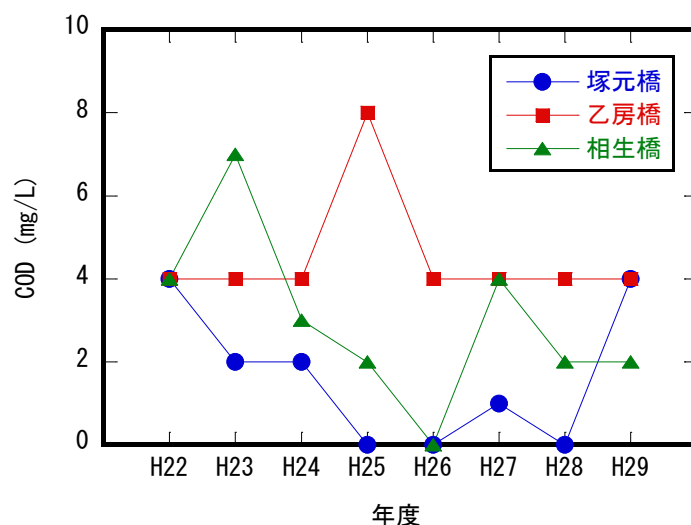


図-1 大淀川におけるCODの時系列的变化 (H22-29年度)

表-1 全国一斉水質調査結果(平成29年度)											
No.	河川名	地点名	COD低濃度			硝酸態窒素			リン酸態リン		
			H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
1	大淀川	桜木橋	0	2	4	0.5	0.5	0.2	0.066	0.0165	0.0165
2		塚元橋	1	0	4	1.2	1.2	1.2	0.0165	0.0165	0.066
3		新割田橋	4	2	4	1.2	0.5	1.2	0.066	0.066	0.165
4		今迫橋	3	2	6	2.3	2.3	1.2	0.066	0.066	0.165
5		岳下橋	0	4	2	2.3	1.2	2.3	0.165	0.066	0.066
6		志比田橋	2	4	4	4.6	1.2	2.3	0.066	0.165	0.066
7		乙房橋	4	4	4	2.3	2.3	2.3	0.066	0.066	0.165
8		王子橋	2	4	2	4.6	4.6	2.3	0.066	0.066	0.066
9		樋渡橋	2	2	2	1.2	1.2	2.3	0.165	0.0165	0.066
10		第一発電所	2	2	4	2.3	2.3	1.2	0.066	0.066	0.066
11		沖之尾峡橋	0	2	2	2.3	1.2	2.3	0.066	0.066	0.0165
12		山下橋	2	4	0	1.2	1.2	1.2	0.033	0.066	0.033
13		柚木崎橋	2	4	0	2.3	0.5	2.3	0.066	0.165	0.066
14		大の丸橋	0	8>	2	2.3	1.2	1.2	0.165	0.066	0.066
15		花見橋	4	4	2	2.3	0.5	0.5	0.066	0.165	0.066
16		有田橋	4	2	2	4.6	4.6	1.2	0.066	0.066	0.066
17		相生橋	4	2	2	2.3	4.6	1.2	0.066	0.165	0.033
18	萩原川	木前橋	2	4	2	1.2	0.5	1.2	0.033	0.0165	0.066
19	年見川	宮丸橋	4	2	2	2.3	0.2	1.2	0.066	0.165	0.033
20	沖水川	下沖水橋	4	2	2	0.2	0.5	0.5	0.0165	0.033	0.0165
21	横市川	源野橋	4	4	2	1.2	2.3	2.3	0.165	0.066	0.066
22	庄内川	下鶴島橋	4	2	4	1.2	1.2	2.3	0.033	0.0165	0.033
23	高崎川	鶴崎橋	2	2	2	2.3	1.2	2.3	0.066	0.066	0.066
24	岩瀬川	岩瀬ダム	2	2	2	2.3	1.2	2.3	0.033	0.0165	0.0165
26		猿瀬橋	3	4	3	0.5	0.5	0.5	0.033	0.033	0.0165
27		岩瀬橋	3	3	3	1.2	0.5	0.2	0.033	0.0165	0.0165
28	戸崎川	大王橋	6	6	5	1.2	0.5	0.2	0.066	0.033	0.165
29		切畑橋		6	4		0.5	0.5		0.0165	0.0165
		のじり大橋	7			0.5			0.0165		
25	本庄川	柳瀬橋	2	2	4	0.2	0.5	1.2	0.0165	0.0165	0.033



Ⅲ. 教育部会報告（部会長 渡邊 俊輔）

1. 大淀川の学習・体験の推進事業 ～大淀川と友達になろう～を開催しました

平成 29 年度宮崎市民活動支援補助金の助成団体に採択され、宮崎市環境保全課との協働事業として、8 月から毎月第一日曜日に開催しました。対象は宮崎市住民（幼稚園児、保育園児、小学生などの親子）で、子ども 66 名、大人 55 名の計 121 名（申し込み人数：子ども 166 名、大人 141 名の計 307 名）に参加いただきました。

ボランティア(団体外)10名、会員27名 合計158名での活動となりました。

8 月：「大淀川を知ろう」（台風の影響で中止）

～高松橋から大淀川の流れや水辺の様子を観察し川の仕組みを学ぶ～
（申し込み数 17 名）

9 月：「ヨシの葉を使って遊ぼう」

ヨシの葉でヨシ舟を作って天満橋下の小川に流したり、採取した野草を使ってミニ地球を作った。
（子ども 14 名・大人 12 名 計 26 名 申込数 39 名）



10 月：「カヌー体験とごみ拾い」

大淀川でカヌーを体験し、水辺のごみを拾った。

カヌー体験とゴミ拾いということで非常に人気のあるメニューとなっている。定員の約 3 倍の申し込みがあったので参加者を抽選とした。

（子ども 17 名・大人 13 名 計 30 名 申込数 92 名）



11 月：「清武川の探検と互換による水辺調査」

バスで清武川の上流から下流の 4 か所(鰐塚溪谷、上屋敷橋、黒北発電所、松井用水取水堰)を回り、近くの河原で五感による水辺環境調査を行った。

（子ども 13 名・大人 10 名 計 23 名 申込数 40 名）



12月：「河原で希少植物を探そう」

南谷忠志先生を講師にお招きし、天満橋周辺の水辺や河川敷、堤防で植物観察して、希少植物を探した。

(子ども5名・大人5名 計10名 申込数34名)



1月：「川原で川の宝を探そう」

高松橋から橘橋までの大淀川河川敷で指定されたルートを歩きポイント探し回ってクイズに回答しながら大淀川の素晴らしさについて学んだ。

(子ども8名・大人8名 計16名 申込数46名)



2月：「水のオリンピック」

クリップやビー玉を使った水のオリンピックを実施し、その後にペットボトルで噴水を作って楽しみながら水の特性を学んだ。

(子ども9名・大人7名 16名 申込数34名)



2. 宮崎県絶滅危惧種 タコノアシの保全活動

セブン・イレブン記念財団の活動助成を受けて実施

大淀川河口から4.5～5kmの左岸に位置するワンドの上流端に塩性湿地があり、全域にヨシやオギなどが群落を形成、水際に宮崎県絶滅危惧種Ⅱ類のタコノアシが生育している。

この湿地のタコノアシを保全対象として、日当たりの良い湿地への改善と生育地の拡大を実施した。

①募集案内のポスターとチラシを作成して、地域の小学生や大学生、専門学校生に配布、地域住民にはホームページやブログ、情報誌に掲載して、環境ボランティアの参加を募った。



②タコノアシの生育地での刈取り作業を効率的に行うために、湿地の川側の砂州上に作業路を伐開した。

③タコノアシの成長期となる春季の活動では、タコノアシの生育地で競争種となっている丈の高いヨシやオギなどを刈払機と刈込鋏、剪定鋏を使って刈取り、トラックでゴミ処理施設に持ち出した。



④開花期となる夏季と秋季の2回の活動では、外来種のアレチハナカサをスコップで抜根して駆逐し、その下流の未生育地で水際のヨシやオギなどを刈取った。夏季はトラックでゴミ処理施設に持ち出したが、秋季はその場に倒して処理施設には持ち出さなかった。



⑤刈取った未生育地で水際をスコップで掘削して緩傾斜化し、生育地の密集度が高い箇所では採取した茎の一部を刈って短くした茎と発芽苗を植えた。



○ MRT宮崎放送の夕方のニュースで、活動が紹介されました。



⑥冬季の紅葉期の活動は、種子を採取して、未生育地の緩傾斜化した水際に播種する。また春季に刈取った生育地で伸長したヨシやオギなどを刈取り差し芽をした。



・多くのボランティアの方々に参加していただき、生物多様性への関心を高めることができました。



評価

- ・協働事業とすることで、行政からも企画・運営・実施に対する助言をもらうことができ、市報への掲載や教育関係への周知が行き届いた。
- ・親子向けの団体で活動する保護者も参加、活動の趣旨に賛同してフリーペーパー「グラマパ」1月号に掲載していただいた。その後、問い合わせと参加申し込みがあった。
- ・みやざきの子育て情報誌「With plus」にも掲載された。
- ・多団体との連携や口コミでの参加者増に効果があった。
- ・ボランティアの協力により、大淀川の河川敷に生息する絶滅危惧種の植物をはじめ様々な生物の観察を通して、大淀川について関心を持ってもらう機会を提供することができた。

今後の課題

- ・屋外会場での実施は天候にも左右されるため、実施日の設定が難しかった。
- ・次世代を担う若者が環境保全活動に参加できる機会を提供するために、今年度協力いただいた専門学校、大学等と連絡を取り合いながら継続できる事業を目指していきたい。

IV. 広報部会報告（部会長 松本 浩二）

1. 広報誌の発刊

2. 未来につなぐ水資源・水環境の保全推進啓発事業

「水辺環境調査やイベント等の実施により、多くの県民が身近な水環境にふれあう機会を増やすことで、本県の水環境に関する県民一人ひとりの知識・関心の向上を図り、水環境保全に向けた県民総力戦での実践活動につなげることを目的として、昨年度に続いて下記の事業を実施しました。

今年度の主な事業内容については次の通りです。

- ① 県内の河川流域で普及啓発のための水辺環境調査を実施
- ② 平成29年度の水辺環境調査の実施結果を記したパネルを作成
 - ・調査結果マップを作成する。
 - ・各小学校が独自に作成した調査結果の展示用パネル作成
- ③ 水辺環境調査のパネル展の実施

パネル等を展示してPRに努め、県民の皆様が河川に親しみ、河川を守り育てる意識を高めることができました。

イオンモール宮崎

期 間：平成29年8月27日（日）～31日（木）

場 所：イオンモール宮崎 1階 レストランコート

宮崎県立図書館

期 間：平成29年9月5日（月）～10日（日）

場 所：宮崎県立図書館 1階ロビー

宮崎県庁 1階ロビー

期 間：平成29年9月11日（月）～15日（金）

場 所：宮崎県庁 本館 1階ロビー

イオン延岡

期 間：平成29年10月2日（月）～6日（金）

場 所：イオンモール延岡 1階

イオン都城（早鈴町）

期 間：平成29年10月16日（月）～23日（月）

場 所：イオンモール都城 2階 レストランコート



④ 子どもたちを対象として、水環境保全に関する啓発イベントを実施

開催日時 オープニングセレモニー 平成 29 年 8 月 26 日（土）

啓発イベント 平成 29 年 8 月 26 日（土）

場 所 イオンモール宮崎 1 階 レストランコート

【オープニングセレモニー】

パネル展示に先立ち、オープニングイベントを開催した。

ふるさとの水辺広報大使に任命された、みやざき犬の「かあくん」と一緒に、多くの県民の皆様にごふるさとの水辺のことを少しでも知っていただけるように、劇で「五感を使った水辺環境調査」を説明した。

終了後には、かあくんが水辺環境調査で使う資材（下敷き・しおり）を配布してくれた。



⑤水辺環境調査の情報発信 「ふるさとの水辺ホームページ」の更新

現在、宮崎県の「みやざきの環境」ホームページ内にある「ふるさとの水辺ホームページ」の内容・記事を更新しました。

3. ホームページの活用

今年度もイベントの告知・報告にホームページを積極的に活用しました。

参加者の募集や、イベントの活動結果・結果報告などの告知を行っています。

「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」では、募集からレポート採点結果閲覧までを、ホームページで行っています。

＜2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日までのアクセス解析＞

・アクセス総数：27, 131 件

・訪問人数（ユニーク）：4, 512 名

・ページビュー：27, 131

※平均すると 1 名の方が約 6 ページ閲覧しています。

また、河川財団による河川基金の助成を受けて作成した「宮崎県内の優れた川づくりの事例集」を掲載して、今後の川づくりを質的に向上させるために、多自然川づくりの人材育成の一層の充実を図りました。

▼宮崎県内の優れた川づくりの事例集 URL

<http://www.oyodo-river.org/rwcs/>

4. その他

宮崎国道河川事務所の事業である「宮崎川づくり交流会」の、住民団体紹介ホームページの団体紹介のデザインをリニューアルして団体情報を更新作業を行いました。

V. その他

1. 「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」を運営しました

この研究会は、宮崎県との協働事業として実施していて、本団体が事務局を務めました。河川等に関係する行政や企業の技術者が多自然川づくりを学ぶ水辺の工法研修会と、うるおいのある川づくりコンペ、身近な水辺のモニター報告会、河川担当の行政職員を対象とした研修会の開催を行っています。特に本年度は、河川基金から川づくり団体部門で助成を受けて、多自然川づくりの人材育成の一層の充実を図るために、これまでの河川改修事業の中から宮崎県河川課と模範事例を選定し、教材として印刷し、優良事例集の発行とホームページへの掲載を行って、その活用を図りました。

●水辺の工法研修会の開催

平成 29 年度第 1 回研修会

実施日 6 月 1 日(木) 会場：日向市中央公民館

6 月 2 日(金) 会場：J A アズムホール

講師 1 ひむか河川研究所 黒木修身 氏

題名 建設技術者の実務におけるドローンの活用

講師 2 山口県土木建築部河川課 吉村崇 氏

題名 「水辺の小わざ」による効率的な魚道改善の取組み

両会場の合計参加者数：行政 34 名、民間 572 名



平成 29 年度第 2 回研修会

実施日 8 月 9 日(火) 会場：日向市中央公民館

8 月 10 日(木) 会場：J A アズムホール

講師 1 九州大学大学院環境社会部門 林 博徳 氏

題名 環境に配慮した川づくりのポイント

講師 2 熊本大学大学院先端科学研究部 一柳 英隆 氏

題名 川の生き物の移動と生息地の連続性

両会場の合計参加者数：行政 39 名、民間 524 名



平成 29 年度第 3 回研修会

実施日 10 月 10 日(火) 会場：日向市中央公民館

10 月 11 日(水) 会場：J A アズムホール

講師 1-1 大分県佐伯土木事務所 築地 祐一郎 氏

題名 効率的な維持管理を目指した中小河川の掘削断面について

講師 1-2 大分県国東土木事務所 小石 麻祐子 氏

題名 武蔵川における重要生物の保全～水辺環境の復元を目指して～

講師 2 九州河川研究所 杉尾 哲 氏

題名 宮崎県内の優れた川づくりの事例紹介

両会場の合計参加者数：行政 45 名、民間 459 名



●身近な水辺のモニター担当者研修会の開催

各土木事務所で河川モニターと実施する五感による水辺調査とHEI チェックシートによる河川環境調査について、実施方法を解説して現地実習を行いました。

実施日 平成 29 年 5 月 22 日(月)

会場：宮崎市・本庄川、 参加者数 11 名



●第 11 回うるおいのある川づくりコンペの開催

「私たちがめざすうるおいのある川や水辺はどんな姿なのか」について、河川で活動する企業・行政に呼びかけて開催しました。今年は、審査の結果、延岡河川国道事務所の「延岡水郷鮎やなと都市・地域再生等利用区域の指定について」が金賞、西臼杵支庁の「神代川かわまちづくりについて」と高岡土木事務所の「浦之名川でのセットバック方式による魚道整備計画について」が銀賞を受賞して、銀賞 2 件が宮崎県の代表として 10 月に大分市で開催された九州大会の発表課題に選出されました。

実施日 平成 29 年 8 月 29 日(月)

会場：宮崎県企業局県電ホール 発表団体数 9 団体、参加者数 53 名



●宮崎県河川担当職員を対象とした研修会の開催

宮崎県と国交省の河川担当職員を対象として、浦之名川を対象とした多自然川づくりの理解と現地での技術の習得を目的として現地調査と設計演習、演習結果の発表を行いました。

実施日 平成 29 年 11 月 8 日(水)

場所：高岡土木事務所、 参加者数 12 名



●第 9 回身近な水辺のモニター報告会を開催

県内各地の土木事務所で地域住民の方々をお願いしている水辺のモニターの意見を今後の川づくりに反映させるために、調査の成果を報告し、いろいろな情報交換を行いました。

実施日 平成 30 年 2 月 20 日(火)

会場：企業局県電ホール

発表団体数 12 団体、 参加者数 56 名



以上の「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」の宮崎県との協働事業は、多自然川づくりが県内各地で推進されているとともに、宮崎での住民・行政・民間業者・NPO が一体となった川づくりの取り組みが全国的に高く評価されていることから、次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後さらに充実させて実施すべきであると評価します。

2. 河川協力団体として活動しました

本団体は、みやざき川づくり交流会の運営補佐や、河川利活用の事例収集、水生生物調査の安全管理、水辺の安全講習会の開催などの様々な活動を宮崎河川国道事務所から受託して実施しています。

●みやざき川づくり交流会の運営補佐

第1回みやざき川づくり交流会

国富町内を流れる本庄川を見学し、国富町役場で各団体の活動紹介、各助成金制度の紹介などについて協議しました。

開催日 平成29年9月27日(水)

場所 国富町役場

出席団体数 14団体、参加者数：行政32名、団体22名

第2回みやざき川づくり交流会

各団体の活動紹介、来年度の九州川のワークショップの参加や次回開催地などについて協議しました。

開催日 平成30年2月28日(水)

場所 宮崎河川国道事務所

出席団体数 12団体、参加者数：行政29名、団体21名

●河川利活用事例収集、簡易水質調査実施補助

みやざき川づくり交流会に参加している各団体の活動状況の取材と宮崎河川国道事務所が実施する小学校を対象とした水生生物調査の安全管理補助を行いました。

実施日 平成29年9月～平成30年3月

取材団体数 17団体

●水辺の安全講習会の開催

水辺で安全に活動するために、河川内の危険箇所、水中活動時の装備等についての講義と流水中での実習を行いました。

開催日 平成29年7月19日(水)

場所 国富町農村環境改善センター、本庄川

参加者数 11名

●ミズベリング宮崎の実施

大淀川の景観・歴史・文化等の魅力などを活かして水辺空間を賑やかにする企画会議を開催し、夜桜会、水辺で乾杯、水辺のパラソル、水辺でお接待などを行いました。

実施日 平成29年4月～平成30年3月



以上の河川協力団体としての諸活動は、宮崎県南部で活動する河川環境保全団体との連携を深めるために極めて重要であるとともに、川で安全に楽しく利活用するために必要であることから、今後とも積極的に継続すべき取り組みであると評価します。

3. タコノアシの保全活動

● 高松橋下流砂州

高松橋下流の砂州には、宮崎県絶滅危惧植物のタコノアシが生育しています。富士フィルム・グリーンファンドの助成を受けて、生育地の日当たりを改善するとともに生育範囲を拡大するために、周辺のヨシを刈取り、表土を掘起して、埋土種子の発芽を誘導しました。

実施日 平成 29 年 4 月 15 日(日)と 7 月 9 日(日)

実施場所 高松橋下流の河川敷、 参加者数 14 名



● 天満橋下砂州

大淀川河川敷広場のせせらぎ水路とワンドを繋ぐ小川の天満橋上流側には、宮崎県絶滅危惧植物のタコノアシが群落を形成して生育しています。セブン-イレブン記念財団の助成を受けて、生育地の日当たりを改善するとともに生育範囲を天満橋下流側に拡大するために、周辺のヨシやオギ、ヤナギなどを刈取り、水辺を緩傾斜にして、茎を移植しました。

実施日 平成 29 年 5 月 28 日(日)、7 月 23 日(日)、

11 月 23 日、30 年 3 月 25 日(日)

実施場所 天満橋下砂州、 参加者数 89 名



大淀川下流の河川敷は、当団体の貴重な活動フィールドになっています。企業や学校、親子などの多くの住民が参加するクリーンアップやタコノアシの保全活動を行うことによって、天満橋周辺の左岸河川敷が身近な自然体験の場所として活用できるようになっています。これらの環境保全活動は、川の素晴らしさ・大切さ・楽しさを参加者に気付かせて川への関心を高めるために重要であることから、今後とも積極的に継続すべき取り組みであると評価します。

4. 九州「川」のワークショップ in 大野川に参加しました

河川流域で活動している九州の団体・学校・行政・企業などが活動発表・意見交換や情報共有を行ってより良い水環境を育むとともに、流域連携を目的として毎年九州各地で開催されています。今年の第 17 回は隣県の大分県で開催されたことから、みやざき川づくり交流会の方々と一緒に参加しました。また、二日目の見学会では大分川水系七瀬川の上流に建設中のロックフィルダム形式の大分川ダムを見学しました。本体工事は既に完成していて、平成 30 年 2 月から水を貯め始めるので、貯水する前しか見ることができないダムの姿でした。

開催日 平成 29 年 11 月 11 日(土)～12 日(日)

開催場所 ホルトホール大分



5. MRT 環境賞大賞を受賞しました

宮崎放送の「キープみやざきビューティフル」キャンペーンにおいて、当団体の活動がふるさと宮崎の環境保全の推進に特に顕著であるとして、2017 年度 MRT 環境賞大賞を受賞しました。皆様のご協力の賜物であると感謝します。

表彰式 平成 30 年 3 月 21 日（水・祝日）

開催場所 MRT Micc エメラルドホール



九州「川」のワークショップは、九州の河川をフィールドとする活動発表や意見交換、情報共有を行う全国的にも貴重な機会であり、他の団体の活動手法を学び・理解し、今後の活動の糧となることができることから、今後とも積極的に継続すべき取り組みであると評価します。MRT 環境賞の受賞は平成 27 年度国土交通大臣賞に続く光栄な表彰で、この栄誉に応えるように、今後とも益々連携の輪を広めて、自然豊かで清らかな大淀川を次世代に引き継いでもらえるように活動を継続すべきであると評価します。

VI. 評価部会報告書（部会長 奈下 信芳）

平成 29 年度事業活動評価を報告致します。

1. 会員、賛助会員の加入促進について

平成 27 年 4 月 1 日現在	個人会員 97 名	賛助会員 9 企業
平成 28 年 4 月 1 日現在	個人会員 93 名	賛助会員 8 企業
平成 29 年 4 月 1 日現在	個人会員 93 名	賛助会員 9 企業
平成 30 年 4 月 1 日現在	個人会員 98 名	賛助会員 11 企業

以上となっていますが、ようやく会員・賛助会員増になって来ました。

1 名でも増える事が、会の発展、活性化につながります。

理事、会員頑張って下さい。

2. 自主事業について

自主事業（参加）4 件

委託事業（協力、助成）12 件

出来れば、自主事業で大淀川流域ネットワークの存在感が発揮出来るよう検討ください。